巻頭言

栃木県立佐野高等学校・同附属中学校長　赤羽　浩

令和元年度は新天皇の即位に加え、ラグビーワールドカップ日本大会の開催、吉野彰・旭化成名誉フェローのノーベル化学賞受賞など明るいニュースがあった一方で、大学入試共通テストにおける外部検定試験や記述式問題導入の見送り、東日本のおける台風15号や19号による甚大な被害、そして世界的な蔓延となった新型コロナウイルスの感染といった国内外を大きく混乱させる出来事が強く印象に残る１年となりました。

グローバル化が急速に進展し、人の移動が短時間で頻繁に行われる現代において、一地域で発生した感染症は瞬く間に世界各地に広がり、経済、産業、安全保障などに大きな影響を与えます。このような世界規模の危機的状況であるからこそ、関係各国の協力が欠かせません。しかし、国家間の信頼関係が醸成されていない場合、感染症への対応にも不信感が反映されてしまい、かえって亀裂を広げることにもなりかねません。ただ、安全保障や経済、領土問題などといった課題に比べ、今回のような感染症対策、特に感染抑制の成功例などの情報や知見の共有は、双方にとって利益となるものであり、国際協調の契機とすることもできるのではないかと思います。いわゆる「ヒト、モノ、カネ」が国境や地域を越えて地球規模で行き来するようになるグローバル化ですが、その大前提として必要になるのは、バックボーンの異なる様々な人々との「信頼関係の構築」であり、そのため、グローバルリーダーには文化・文明が異なる国や地域に属していても、共有できる倫理観や価値観があることに気づく、「精神的寛容さ」が求められるのではないでしょうか。

さて、文部科学省からの指定４年目となる今年度は、本校ＳＧＨを特徴づける事業の一つである「グローバル研修(カナダ)」が、新型コロナウイルス感染への対応として３月中の実施を見送ることとなりました。幸い、毎年研修に先立って実施してきた「課題研究発表コンテスト」は開催することができ、審査員の皆様からは、これまで以上のレベルの高さに多くのお褒めの言葉をいただきました。また、ＳＧＨクラブ研修班の海外研修は宇都宮大学農学部の大久保達弘教授に御指導いただき、初めてマレーシアにおけるフィールドワークを行い、その結果を「全国高校生フォーラム」で発表するなど、成果を上げることができました。本校ＳＧＨ活動の核である課題研究では、第２学年の修学旅行で今回初めて訪問した高雄女子高級中學において、全生徒のプレゼンテーション等による交流活動を行うなど、更に進化しています。この３月の卒業生は３年間をＳＧＨとして過ごした２回目の生徒たちですが、課題研究やディベートなどの取組を最大限に生かして大学受験に挑み、昨年度に引き続き好調な結果を残してくれています。その他、今年度の成果と課題等についての詳細を本冊子に掲載いたしましたので、御一読いただき忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

いよいよ令和２年度は佐高ＳＧＨの最終年度となります。これまでの取組の集大成として、また、ＳＧＨ後の本校グローバルプログラムの在り方やその内容についての検討も加えながら、全教職員が一丸となって、本校の教育目標である「自他の生命と人権を尊重し、正義と平和を愛する心をもった、『国際人として活躍できる真のリーダー』の育成」に努めていきたいと考えております。

最後に、日頃から貴重な御指導・御助言をいただいております、本校グローバル教育統括アドバイザーの東京海洋大学小松俊明教授、宇都宮大学松金公正教授、そして運営指導員の皆様、更には課題研究等でお世話になった大学関係者の皆様、佐野市、地元企業、各種団体等の多くの方々、栃木県教育委員会の皆様に感謝申し上げ、今後ますますの御支援・御協力をお願いし、本報告書の巻頭言といたします。